

第14回 日本言語文化学会報告

6月21日午後2時から行われた第14回日本言語文化学会では、4名の発表が行われました。

谷淵麻子さんによる「大和定住促進センターでのコミュニケーション行動－エスノグラフィ的研究の試み－」は、センター内での補習授業の観察と関係者へのインタビューを通して、来日後半年をセンターで過ごす人達のコミュニケーション行動を分析したものでした。

続いての小笠恵美子さんによる「グループ活動に見られる力関係と話題提起」では、教室内での学生の会話において場面による負荷が話題提示にどのような影響を及ぼすか、をアンケートとインタビューによって明らかにしようという試みがなされていました。

これら二つの研究はこれから修士論文としてまとめられる予定です。

休憩後行われた劉卿美さんの「屏風歌の表現」は、9世紀に生まれたとされている屏風歌の表現について、京都醍醐寺の五重の塔初層の天井板に見られる落書きを題材として、絵、とくに画中の人物の存在と歌との関連を考察したものでした。

最後の井内麻矢子さんの「日本語学習者の発話にたいする母語話者の印象」では、日本語学習者の話す日本語に対して日本人がどのような印象を持つか、について、自然度と好感度という二つの尺度を用いて行ったアンケートの結果が報告されました。

なお、発表終了後の総会で、本年3月に退官された平田悦朗先生に代わり、本学教授長友和彦先生の新会長就任が承認されました。また、事務局より、平成8年度の決算報告が行われました。

(内田安伊子)